

# 第59回日本伝統工芸展 関連行事

広島県立美術館友の会共催

## 記念講演会「伝統工芸の源泉と現代」

講師：金子賢治 〔茨城県陶芸美術館館長  
多治見市美濃焼ミュージアム館長〕

日時：3月2日（土）13：30～（開場 13：00）

会場：広島県立美術館地階講堂（定員：200名、聴講無料）

しばしば工芸は、用途のある美術品、すなわち「工芸＝用＋美」と説明されます。金子賢治さんはこの考え方に疑念を呈し、工芸における造形の論理を「工芸的造形」と名付けました。工芸にはまず土や木、金属などの素材があり、これを加工する技術や工程があります。ここに作者が心を寄り添わせて生み出した工芸特有の造形に「実際に使えるか、使えないか」は問題ではない、すなわち「工芸＝素材＋技術＋プロセス＋心」という考え方です。既成概念にとらわれない、新しい工芸の見方、皆さまにとって目からウロコのお話が聞けるのではないのでしょうか？講演では、1万5千年前の縄文時代から現代にいたる工芸の変遷を、TVドラマ「水戸黄門」でのエピソードも交えながら、わかりやすくお話しさせていただきます。

金子賢治さんは三重県出身。東北大学大学院で美学美術史を専攻された後、サントリー美術館学芸員、文化庁文化部調査官、東京国立近代美術館工芸課長などを経て、現在は茨城県陶芸美術館館長、多治見市美濃焼ミュージアム館長。日本伝統工芸展では長年にわたり、審査・鑑査委員を務めておられます。著書に『現代陶芸の造形思考』（阿部出版）『日本やきもの史』（美術出版社）など。陶芸を中心に現代工芸論の第一人者として知られています。



## ギャラリートーク - 日本工芸会正会員（入選作家）による専門分野の作品解説 - 詳しい技法解説や創作現場の息吹など、作家ならではの説明を聞くことができる、またとない機会です。

3月1日（金）11：00～

講師：菅坂安子

分野：諸工芸

安定した実力を誇る七宝作家である講師が諸工芸部門の多彩な作品を解説します。



有線七宝花器「春待つ深雪」

3月1日（金）17：30～

講師：岡本佳子

分野：金工

講師はこのたび日本工芸会会長賞を受賞。金工の妙技を解説します。



接合せ菓子器「輝響」



3月2日（土）11：00～

講師：金城一國斎

分野：漆芸

講師は広島県指定無形文化財保持者。漆芸の各種技法をわかりやすく解説。



卵殻高盛絵飾箱「滝つ瀬」

3月3日（日）11：00～

講師：小林良巳

分野：陶芸

備前焼作家の講師が、釉薬を用いない焼き締め陶の奥義を語ります。



備前緋襷花器



裏面へ続く

3月8日(金) 11:00~

講師：小林利幸

分野：木工

講師は広島の伝統木工・宮島細工の継承者。専門の口クロを中心に解説。



栃拭漆盛器



3月8日(金) 17:30~

講師：金城一國斎

分野：漆芸

広島の伝統漆芸・高盛絵を継承する講師が3月2日に引き続き、2度目の作品解説をします。

3月9日(土) 11:00~

講師：井戸川豊

分野：陶芸

講師は広島大学准教授。心うるおす陶芸の魅力を語っていただきます。



銀泥彩磁アスパラ文鉢



3月10日(日) 11:00~

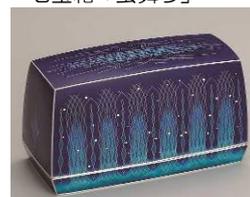
講師：栗根仁志

分野：七宝

講師はこのたび日本工芸会奨励賞を受賞。七宝技法最前線のお話です。



七宝箱「蛭舞う」



3月15日(金) 11:00~

講師：馬舩宏明

分野：漆芸

講師の本業は指物師。漆塗りの土台となる素地作りからお話が伺えます。



彫漆蒔醤八角箱「晩夏」



3月15日(金) 17:30~

講師：福井 禎

分野：染織

講師は鳥取県の無形民俗文化財技術保持者。倉吉緋を始め貴重なお話を伺います。



木綿茶手紡緋着物「藍」



3月16日(土) 11:00~

講師：木村芳郎

分野：陶芸

青い釉薬の作品で世界的に知られる講師。幅広い視野から解説します。



碧釉漣文器



ギャラリートークの所用時間は概ね40分です。会場は第59回日本伝統工芸展会場(3階企画展示室)内の各分野のコーナーです。参加をご希望の場合は入館券が必要です。

## よくわかる解説付き観賞会 - 担当学芸員による鑑賞の参考となるレクチャー -

**特典** 参加者は団体料金で入館券を購入できます。

日時：3月10日(日) 14:00~15:00 (開場：13:30)

会場：広島県立美術館地階講堂 定員：200名 (聴講無料)

講師：宮本真希子 (当館学芸員)

【お問い合わせ】 広島県立美術館 〒730-0014 広島市中区上幟町2-22  
TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444